

第二十二番 大本山百萬遍知恩寺の御詠歌 (葵調)

(夏の御詠歌)

♩ = 50

松 濤 基 作曲



[齊唱] ○○× ○○× ○○× ○○× ○○×
われはた だ ほとけに い つか あ — — —



○○× ○ × ○ × ○○× ○○× ○ ×
お — い ぐ — — さ こころの つ まに か — —



☒ ○○× ○○× ○ × ☒ ☒
け ぬ — ひ — ぞ — な — — — き

第二十二番 山城の国 大本山百萬遍知恩寺

われはただ 仏にいつか 葵草^{あふひぐさ} 心のつまに 掛けぬ日ぞなき

(法然上人御作)

法然上人が一時住まわれた賀茂^{かも}の河原屋^{かわらや}という寺堂に、お弟子の勢観^{せいかん}房源^{ぼうげん}智^ち上人が御影堂を建てられたのが、このお寺の起こりであります。後醍醐^{ごだいご}天皇の御代、京都に大地震があり、更に悪疫が流行しました。天皇は大変心配なされて、知恩寺の第8世空円^{くうえん}上人に、悪疫退散の祈願を命ぜられました。上人は衆僧を集めて、百万遍のお念仏を修せられたところ、悪疫は次第に治まり、人心も落ち着いてまいりました。その功により、「百万遍」という勅額を賜り、その後「百万遍」の通称で親しまれています。「葵草^{あふひぐさ}」というのは、二葉葵^{ふたばあおい}の別名です。京都の葵祭^{あおい}はこの草を掛けて行うので「掛葵^{かけあおい}」の名があります。み仏に心を掛けることを「掛葵」でお歌いになられました。

大意 私は何時もみ仏にお会いし奉り、何時も心に掛けて、片時も、み仏と離れた事はありません。

ポイント注意

- 2拍子のリズムを強調して唱えます。
- 「あおいぐさ」はのびやかに。
- 「かけ」の「け」を力強く、「ひぞなき」はのびやかに、次第にゆっくり。